

学校キャラバン（出前授業）を開催【九州地整と九州建専連】

香椎工業高校の生徒80人が建設現場のリアルを学ぶ



学校キャラバン（出前授業）で熱心に聴講する香椎工業高校の生徒さん

九州地方整備局と建設産業専門団体九州地区連合会（九州建専連）は2月26日と27日、香椎工業高等学校電気科2年生約80人を対象に、建設産業の高齢化や担い手不足の課題解決を目指し、建設業の役割や魅力を伝えるプログラム「学校キャラバン（出前授業）」を開催した。本プログラムは建設業界と行政が協力して、平成29年度から建設業の社会的な役割、ものづくりの素晴らしさを体験できる機会として高等学校を訪問し、生徒や教員に魅力を発信している。

学校キャラバンは、2日間それぞれ体育館で小型ドローン操作を行った後、生徒8人ずつ5グループに分かれて「足場設置」、「鉄筋ガス圧接」、「鉄筋結束」、「型枠組立」、「解体工事」の作業を交代しながら体験した。



真剣な眼差しで建設業の作業体験

足場設置では、福岡県鳶土工業連合会が、足場の組み立てから解体を体験。鉄筋ガス圧接では、西日本圧接業協同組合が、鉄筋を加熱し、圧力を加えながら接合作業を体験。鉄筋結束では、福岡県鉄筋事業協同組合が、鉄筋を結束し建物の骨組み組立体験。型枠組立では、(一社)日本型枠工事業協会九州支部が、コンクリートを流し込む型枠を作成体験。解体工事では、(一社)福岡県解体工

事業協会が解体重機の操作体験を行った。

生徒さんたちは、真剣な眼差しで、説明を聞きながらそれぞれの作業を体験。そのあと、意見交換会が行われ、生徒さんから「海の中にある橋はどうやって鉄筋を組んでいるのか」、「雨の日の足場設置で気を付けている事」等。具体的な質問が出て、専門工事業務に対する関心の高さがうかがえた。